

- 「そうだよね」と共感できる部分に線を引ながら文章を読みましょう。
- 角館さんは、「もう二度と会うことができない『別れ』に直面した時に痛いほど感じさせられる」のはどのようなことだと書いていますか。

.....

- 角館さんが、大切な人の死から学んだことはどのようなことですか。

.....

- 角館さんは、別れにより残された自分たちにできることはどのようなことだと書いていますか。

.....

- 角館さんが書いている「そのことを忘れずに、日々の時間を大切に過ごしていきたいと思う」のそのこととはどのようなことですか。

.....

.....

- あなたは、「なぜあの時こうしなかったのか。どうして言わなかったのか。どうして会いに行かなかったのか」と思ったり、後悔したことはありますか、答えられる範囲で答えてみましょう。

.....

.....

- あなたは「思いは伝えるべきであるし、会いたいと思ったらすぐに会いに行き」たい人はいますか、答えられる範囲で答えてみましょう。

.....

年 組 名前



父の死から今年で4年。応援していた人の死から1カ月。始まりがあれば終わりがあられる。出会いがあれば別れがある。生きていければ、いつかは死んでしまふ。それは理解しているけれど、突然すぎる別れにはいつも戸惑い、悲しみ、混乱してしまふ。

「あたりまえ」の日常がいつまでも続くわけではな

いといつとを、もう二度かなければいけないと思

思うこと、後悔することは

つたりすぐに会いに行くべきであると思ふ。

「別れ」の教え胸に刻み

角 館 いつき

いく。そんな日常がある日、突然消え去っていく。ただが過ぎていってしま

う。だからこそ、毎日後悔

わなかったのか。どうして

会いに行かなかったのか。

(2019年2月5日付・岩手日報9面)